

# TRICOLOR

## 大会・公式戦結果

### Top

【神奈川県社会人サッカーリーグ 1 部 (KSL-1)】

▼第 9 節  
 vs VERDRERO 港北 5-4○

▼第 10 節  
 vs さがみ大沢 FC 1-0○

### Youth

【県 U-18 リーグ】  
 vs 金沢総合 0-2●

### Junior Youth

【高円宮杯全日本ユース(U-15)選手権県大会】

▼2 回戦  
 vs 川崎市立東橋中 1-2●

【県 U-15 リーグ昇格決定戦】  
 vs FC インフィニット相模原 2-4●

### 小 6

【三ッ池公園ちびっ子少年少女サッカー大会】

<グループリーグ>  
 vs 太尾 FC 0-1●

vs 勝田 SC 0-3●

vs EMSC 1-5●

※4 チーム中第 4 位

### 小 4

【野川杯】  
 <グループリーグ>

vs NKFC 3-2○

vs FC 隼 0-5●

<3 位決定戦>  
 vs 清瀬 VALIANT 0-5●

※6 チーム中第 4 位

【横浜国際チビっ子】

☆B チーム

vs 小雀 SC 1-7●

vs FC 野庭 0-5●

vs ニッ橋 SC 1-3●

vs 六浦少年 SC-A 0-3●

## Papas

☆マスターズリーグ

【県マスターズリーグ】

vs 県庁 0-2●

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀 4 部】

vs FC430 1-0○

vs アトレチコ 0-2●

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀 3 部】

vs 明星クラブ 1-0○

vs 駒寄 FC 2-1○

vs 早園 OFC 4-2○

## 今、グラウンドでは・・・

### Top

【県リーグ 3 位以内決定！】

9 月は VERDRERO 港北とさがみ大沢 FC 戦を行い、みごと 2 連勝！9 月 28 日現在で暫定首位に返り咲くとともに今シーズンの 3 位以内が決定しました。

20 日の VERDRERO 港北戦は 5-4、先取点を取られるも逆転して突き放したと思ったら追いつかれ、再び突き放したと思ったら失点して、終わってみれば 1 点差。4 失点はあったものの、攻撃に関しては、田村監督の目指すシンプルなサッカーができ、ボールも人もよく動き得点を取るための形ができたゲームでした。

27 日さがみ大沢 FC 戦は、前節に引き続きキャプテン 27 眞弓が怪我で出場できず、前節での警告累積で 22 宮澤、8 角木が出場停止、さらに相手は暫定 2 位の好調さがみ大沢 FC、相手も勝てばまだ 2 位以内の可能性が残っているので、厳しい試合になることは予想して



いました。序盤から相手の両サイドの早い選手にてこずりましたが、そこは監督からの指示で無理して攻撃せず、我慢して失点を防ぐことに徹していました。そして、徐々にかながわクラブのペースに持ち込み、6 堀内の得意のサイドからのドリブルで得点をあげ、その1点を守り抜いたゲームでした。

この2試合を通じて感じたことは、選手たちの気持ちの持ち方が今までと全く違うということです。モチベーションが高いのは当たり前なのかもしれませんが、ゲームに勝つ、1点を取ることの重要さが身にしみてわかった試合だったと思います。そして、出場している選手だけではなく、ベンチにいる選手たちも含めてチームとして強い気持ちで試合に臨む、今までのかながわクラブの Top チームにできなかったことです。

残り1試合、10月4日に最終節 FC ASAHI 戦があります。この試合に勝てば2位以内が確定し、関東リーグへの昇格戦となる「関東社会人サッカー大会」への出場が決まります。また、他力本願ではありますが、県リーグ初優勝の可能性もあります。

このトリコロールが配布されるころには、決まっているかもしれません。良い報告ができるようにがんばりたいと思います。

詳しくは Top チームの公式 Web サイトをご覧ください。

(中本 洋一)

☆Top チーム公式 Web サイト

<http://www.kanagawaclub.com/topteam/>

【選手紹介⑬】



Top チーム選手紹介第 13 回目は、Top チームのボンバー、5 大平潤選手です。

今シーズンから久しぶりに Top チームに合流し、攻守の要としてチーム躍進の原動力になっています。

大平選手の特徴は、ボランチとして守備に貢献するのは当然、その視野の広さから攻撃の面ではスペースをうまく使い、左右にボールを散らし攻撃の基点となり、また、チャンスとなれば、果敢にゴール前まで駆け上がり、得意のヘディングや強烈なシュートで相手を脅かす、幅広いプレースタイルを持つ選手です。先日の VERDRERO 港北戦でも相手ゴール前、最前線で縦パスを受け、ワントラップで強烈なシュートをゴールに叩き込み、貴重な勝利に貢献しました。

試合の流れを変えられる数少ない選手です、これからも大平選手の活躍にご期待ください。

☆大平選手からのコメント

いつも応援ありがとうございます。

残り 1 試合ですが、全力を尽くしてがんばりたいと思います、自分からのサイドチェンジに注目してください。

「関東社会人サッカー大会」に出場できた時には、ぜひ山梨まで応援に来ていただきたいと思います。これからもよろしくお願ひいたします。

Youth

【技術】

「技術」と聞くとボール扱いのうまさからの「華麗なプレー」をイメージしてしまいがちです。いわゆるファンタジスタです。

が、実際に重要になってくるのは、思ったところにボールを置く、思ったところにボールを蹴る技術です。

トラップで相手にボールを渡してしまったり、相手にパスをしているようでは話になりませんし、厳しいプレッシャーの中でもそれが正確にできればいけません。華麗に見えるプレーよりも、まずは地味でも正確なプレーが必要で

す。シュートを決めるのも技術の一つです。「技術」の意味を今一度確認してもらいたいところです。

(内田 佳彦)

Junior Youth

今後のジュニアユースは、下記 3 つの公式戦に出場しますので整理してお知らせします。

①横浜市長旗争奪ジュニアサッカー大会 神奈川区予選

大会期間	10/4(日)~10/11(日)
対象	中3以下
優勝チームが神奈川区代表として本大会へ 本大会期間は 10/25(日)~11/8(日)	

②神奈川県 U-13 リーグ(2nd ステージ)

大会期間	10/3(土)~12/13(日)
対象	中 1 以下
対戦チーム	横浜市立大綱中 パディーJY ジュニオール JY esporte 藤沢 エスプランサ JY
1stステージで6チーム中第3位だったため、 2ndステージは1部リーグとなります	

③神奈川県 CJY U-15 リーグ

大会期間	10/3(土)~3/14(日)
対象	中3以下
対戦チーム	横浜いずみ SC ヘラクレス大磯 SUERTE FC KAZU SC JY 横浜 YMCA

小 6

いよいよ秋季大会が始まります。練習で行ってきたことをまとめてみました。

- ①インサイドキックでのパス
- ②パス&ゴー
- ③攻撃のときには慌てない、急がない
- ④ボールを持っている選手を追い越し、前方のパスコースを増やす。前方でパスを受

ける。

※縦パスがはいった時が合図

#### ⑤スペースをつくる、使う

たくさんありますが、試合中にひとつでも多くのことができるよう、考えながらプレーしてください。

決勝トーナメント進出を目指して頑張りますよ。

(高田 成典)

## 小 5

### 【練習＝ストリートサッカー】

先月号でもお伝えしたとおり、現在、5年生の週末のトレーニングでは、ミニゲームを主体とした練習を行なっています。「こんにちは！」の挨拶と同時に、子供たちどうし協力しながらコートを作ります。ジャンケンでメンバーを決めたら即ゲームの開始です。毎回4vs4のゲームが10分×6セットできるよう、時間の配分を間違わないようにしています。そして、何よりも一番気をつけていることは、極力ゲーム中にコーチングをしないことです。コーチなのにコーチングをしないとは手を抜いているだけでは？と思われてしまうかもしれませんが、ジュニア年代においては「ノーコーチングこそ最良のコーチング」であることに私自身気づき、今のような練習スタイルをとるようになりました。私の大好きなロベルト・バジジョをはじめとした世界のスーパースターたちのコメントを聞いてもわかるとおり、偉大な選手たちも幼少期は『ストリートサッカー』に興じており、皆一様にそこで選手としての原点が作られたと語っています。

練習で身につけたことは、その練習の中でしか使えません。一方、実戦の中で習得したものは、すぐにゲームの中で生かすことができます。これこそが『ストリートサッカー』の最も得意とするところであり、私の狙いでもあります。楽しく前向きに、かつ自主的に取り組むことのできるメニューとして、『ストリートサッカー』

ほどのトレーニングは存在しないのではないのでしょうか。

「ストリート＝野放し」というイメージを保護者の皆様に抱かせてしまう恐れがあるので、念のため申し添えますと、ここの『ストリートサッカー』の位置づけは、子供たちに対して全く何も伝えないという意味ではありません。選手として最低限知っていなければならないことについては、3分ほどの休憩時間の中できちんと伝えるようにしています。例えば、子供たちに話しているのは、良いボールの持ち方をするということです。これは2年間言い続けているテーマでもあり、クリエイティブなサッカー選手を目指す上では絶対に身につけておく必要があります。この先も子供たちの習熟度を見ながら、良い習慣づけの積み上げを行なっていこうと考えています。

さて、3分間レクチャーのあとは、またまたストリートサッカータイムです。前後半20分のゲームを3試合行い、目指すはその週のチャンピオンです。「コーチは何も教えずに何をしているんだろう？」と、この数ヶ月間、疑問に思われていた方もいらっしゃると思いますので、今月はその誤解を解く意味で弁解をさせていただきます。子供たちの今後の成長にご期待ください。

(鈴木 章弘)

## 小 4

### 【国際チビッツを通して学んで欲しいこと】

この大会の前に選手たちに「責任感」について話をしました。

試合に出ているときは、ベンチで見ている選手の分も一生懸命全力でプレーする責任感、移動の時・会場にいるときもかながわクラブの一員として行動する責任感、忘れ物をしないよう、体調管理しなければならない、集合時間を守る責任感、など・・・。

2年生の時に参加した国際チビッツ

とは違い、様々な場面で選手たちには責任感がついてきます。この大会を通して大人の階段をまた一步一步上がって行って欲しいと思います。その中でサッカーを楽しめたらもっと最高です。

(丸山 祐人)

## 小 3

### 【ポジション---戦術眼を養う準備】

夏休み明けから練習試合やゲームの際にポジションを決めることにしました。「そんな当たり前」とのご意見もおありかと思いますが、これまで「慌てて型にはめる」ことの弊害を考慮しあえて決めずに来ましたが、現時点で小3の子供たちには必要と考え「スペース、空間を把握する」ことの理解を目的に始めました。今はまだ「ボールに集まりお団子状態、ボールは持ったが選択肢が見つからずとりあえずドリブル」、「各ポジションの役割などがわからずスペースがあってもどうしてよいかわからない」といった状態ですが、今後役割や動き方など伝えながら練習に取り組む中で徐々にでも「次の選択肢を判断できる」プレーヤーになって欲しいと考えています。

### 【ボールに触る---技術は必要】

一方、ポジションや戦術は理解してもボールが蹴れなければサッカーになりません。ということで、相変わらずですがとにかく時間があればボールに触って欲しい、休日の活動の際にも可能な限り早く来てボールを蹴って欲しいと「お願い」しています。今時の子供たちはサッカー以外にも何かと忙しいとは思いますが、現在の限られた活動時間だけではボールを扱う技術が急激に向上することは期待できません。この年代は(もちろん個人差理解の上ですが)ボールに触っただけ身につく時期であるだけに普段から可能な範囲でボールに触る時間を増やして欲しいと切に思います。

## 【凍ったペットボトル】

夏場に「体を冷やす凍ったペットボトル」のお願いをしました。引き続きの準備をお願いします。これは怪我をした際の応急冷却にも使え、また、水筒の水がなくなった時に飲むこともできます。尚、子供たちには「この準備はご自分で」とお願いしています。

(小野 津春)

## 幼児・小1・小2

### 【国際チビッ子への1年生の参加について】

横浜市国際チビッ子サッカー大会が10月3日(土)より始まります。いわゆる秋の公式戦です。SLの部はU-8ですので、満年齢8歳未満の子どもたちが参加できます。横浜市はサッカーに関しては先進的な地域で、小学生年代で、いち早く8人制の公式戦を導入し、実施しています。サッカー=11人というイメージが大人にはありますが、子どもたちの身体の発達においては、小学生低学年は神経系統の発達が著しい時期ですので、できるだけボールに触れる機会を多くすることが大切です。そのために、11人制より8人制のサッカーの方が子ども一人がボールに触れる機会は多くなります。よって横浜市では、U-8では8人制、U-10では8人制と11人制の公式戦が開かれるようになっているのです。

### 【1年生を選んだ基準は?】

今回もU-8のカテゴリーに2チーム、エントリーしています。ただ、2年生だけですと21人を二つに分けて10人と11人でのエントリーということになり、インフルエンザや学校行事等によっての欠席者を考えるとやや人数的に不安が残ります。そこで1年生のなかから3名ずつ合計6名を公式戦に参加させることになりました。

では、どういう観点で6名を選んだの

かということになります。勿論第一の観点は2年生と同じ程度のサッカーができるかどうかということです。現在の1年生の中にも、サッカーに関して小さくならず意欲や技術の差があることは事実です。ただ、それはあくまでも現状での差ですので、絶対的なものではありませんし、今後どのように子どもたちが成長していくのかは、全くの未知数です。

第二の観点は2年生に対して気後れせずにサッカーができるかということです。これは慣れの問題が大きく、幼稚園の時から1年生(現在の2年生)とサッカーの練習を一緒にしてきたことが大きく影響していると思います。というわけで、1年生の中から6名を選びましたが、前述のように現段階での評価であってこれは将来にわたって絶対的なものではありませんし、ご理解いただきたいと思っています。

### 【子どもの能力は未知数で、無限大です!】

ですから、今回選ばれなかったことを悲観して、サッカーを諦めることはありませんし、逆に今回選ばれたからといって、勘違いすることのないようにしてください。今の段階でうちの子は選ばれなかったからもうサッカーはダメだとか、うちの子は選ばれたのだから、サッカーで飯が食えるに違いないなどは決して思わないでください。子どもたちの可能性は未知数であり、無限大だと思います。かながわクラブでは、小学生低学年からレッテルを貼って選別するつもりは毛頭ありませんので、くれぐれもその点だけは誤解や勘違いのないようにお願いします。

### 【何を物語る? 世界一の小学生!】

面白いエピソードとして、かつて日本の小学生は世界一サッカーが強かったという事実をお話しましょう。実際に小学生年代の国際大会で日本のチームが優勝するという事もありました。ヨーロッパ各国や南米の国々より強いので

す。そこには勝負に拘り、大人のサッカーの縮小版を徹底的に教え込まれた小学生のサッカーが存在したのです。ではその小学生たちは大人になってヨーロッパや南米の国々に勝てる日本代表になり得たのかというと、全くそんなことはありませんでした。逆に「疲れた、もうサッカーはいい…」と燃え尽き症候群とも言える小学生も見られました。

### 【30年以上の実績を誇る!】

こうした事実を踏まえ、数年前から日本サッカー協会も本格的に育成を考えるようになり、小学生年代で過度に勝負に拘ることに警鐘を鳴らし、指導者講習などでは、成長過程に応じたサッカー指導を…と訴え始めています。ただ、まだまだ理想と現実のギャップは大きく、公式戦では力強く蹴って走ってくるチームにはなかなか敵わない現実があります。

しかしながら、かながわクラブは発足当時から30年間にわたって、勝利至上主義ではなく、子どもたちの発達段階に応じたサッカーの指導を行って来ています。目先の勝利を目指すのではなく、今、子どもたちが身につけなければならない技術を確実に身につけさせ、サッカーが大好きな子どもたちを一人でも多く輩出したいと思って指導をしています。

このエピソードは小学生で勝つサッカーを身につけた子どもたちの行く末が必ずしも明るくないこととその後の本人の努力次第でサッカーの成功に結びつくことの2点を表しています。小学校の低学年は、速く走ったり、強く蹴ったりすることよりも、たくさんボールに触れて神経系を刺激し、ボールコントロールのような細かな感覚を身につけさせなければならない時期なのです。大人は簡単に一輪車に乗れるようにならないことは誰も経験があることでしょう。

またサッカーが大好きで毎日継続してボールに触れることを心がければ、あつという間にサッカーは上達するので

す。何度も言いますが、今、試合に出られるかどうかは大した問題ではありませんし、勿論かながわクラブではレギュラーとサブといった区分けを高学年まではしません。しかも、その評価も絶対的なものでなく、人格を否定するものでもありません。低学年では、試合には、公式戦、練習試合を問わず、全員が出場できるようにしています。

本来でしたら、公式戦が始まる前に1年生のご父母の皆様方に直接お話しし、ご理解をいただくべきことでしたが、生憎懇親会が中止となってしまいましたので、この紙面を借りてお話をさせていただきました。よろしくご理解、ご協力をお願いします。

(佐藤 敏明)

## Papas

### 【Comp、2部へ昇格決定】

9月27日、県シニアリーグ3部に参加しているPapas カテゴリーのCompチームは、早園FCに4-2と快勝して結果、1試合を残して来年度2部への自動昇格が決まりました。

思い起こしますと、かながわクラブPapasが県シニアリーグに加盟して早4年。4部からスタートして、翌年にはさらにもう1チームRecを4部に新規加盟することとして、3部に昇格していくCompとの2チーム編成にしました。その年はCompは3部も勝ち上がって2部へと歩を進めました。しかしながら2部に加盟したものの不振が続き、3部降格の憂き目に遭い、本年度を迎えたわけでありませぬ。今季は、決定した。メンバー間のコミュニケーションを密にし、メンバーの意識も入れ替え戦での昇格ではなく、3部1位もしくは2位での自動昇格を目指して取り組んできた結果が見事に実を結んだといえましょう。

これまでの皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、Compの皆様は残り1試合もまた全力を尽くされるようお祈りします。残り試合に勝ちますと今季3部

1位となり、リーグ戦、カップ戦の勝者で戦われる県内シニアチームの最強王者を決定するチャンピオンリーグへの参加することとなり、益々活躍の場が広がることとなります。

### 【Rec・Masters・Over40も元気！】

Recもリーグ終盤を迎え、4部リーグ上位の可能性も見えてきました。残り試合も是非楽しんで頑張ってくださいと思います。

県マスターズリーグに加盟して2年目となるPapas Mastersも後半戦に入りました。おかげさまで今年はメンバーが足りないままキックオフすることもなく進めてこられました。しかし、加盟チームが県内上位チームということもあり、未だに勝ち星には届いていません。しかしながら、人工芝、ナイター設備、県協会派遣審判など最良の環境の中で試合が行われており、また伝統ある上位チームが相手だけに、試合をしながら学ぶことも多いとの声もあり、負け続きですが、楽しんでます。

Over40は、RecとCompの合同チームで横浜市のシニア委員会に加盟しています。年度の前半はベアグラウンドでの交歓試合ですが、年度後半は芝のピッチのみで開催される横浜市マスターズが始まります。4チームの予選リーグを1位通過するとなんと三ツ沢球技場での決勝トーナメントが待っています。今まで行けなかった三ツ沢には是非みんなで行きましょう。

### 【シニアリーググラウンド提供問題その6】

グラウンド提供義務と課徴金問題については、シニアリーグの中に検討委員会が設置することが9月5日の代表者会議で決定されました。その委員5人の一人にPapasStaff浜野が選ばれました。より良い方向で議論が進むことを期待しています。

(茅野 英一)

## ヨーガ

### 【貧乏揺すり】

最近電車の中で貧乏揺すりをしているひとを良く見かけます。

良く見ていると(そんなのを見ている暇な私・・・ははは)ずっと動かし続けているわけではなくて、ときどき「カタカタカタ・・・」と動かしては止まるを繰り返しています。踵を上げ下げして膝をカタカタと結構激しく動かしています。疲れなにかしら。

調べてみると「貧乏揺すり」の原因は良くわかっていないそうです。本人は無意識だとか。そして、男性に多くストレスを溜めていると起きやすいとか。これらのストレスから脳をリラックスさせるためや、逃避行動の一種ではないかと考えられているそうです。

そういえば男性が多いです。たまにわりとカチツとしたスーツを着た女性かな。あの「カタカタ」でどうリラックスできるのか不可解ですが、きっと、このご時勢でストレスを溜め込んでいる人が増えているということが、貧乏揺すりの増加に繋がっているのですね。

しかし、隣の席で「カタカタカタ・・・」と始められてしまうと、こちらにストレスが・・・。どうすれば良いのかしら？いっそ、こちらは膝を横にパタパタ揺らして貧乏揺すりをしていることに気づかせてあげようかしら？

(伊藤 玲子)

## なわごと 理事長の戯言

### 【カヌーで大島往復?!】

今年の海洋キャンプやカヌー教室は雨でたたられました。

「そろそろ新しい刺激がほしい・・・」などと思っていたところに、県の総合型クラブの情報メールが届きました。

茅ヶ崎の「パシフィックビーチクラブ」の情報でした。その集合写真のコメント欄

に「茅ヶ崎-大島往復航海、茅ヶ崎帰港時のもの」などと書いてあるではありませんか！

「ん？！大島往復？！」飛びついてしまいました。調べました。詳細は参加した方のブログ(下記)で判明しました。

<http://menehune.exblog.jp/11279281/>  
アウトリガーカヌーを6名×3組で交代で漕ぎながら、一泊二日で大島往復にチャレンジです。

片道 70km 弱。8 時間でタイムアウト。  
平均時速 9m/h が目標です。

やりましょう！来年。仲間と力を合わせて何かを達成する真の喜びを感じられなくなっている今日この頃、サッカーの試合をする以前に、まず大切なことは何かを理解できるように思います。

皆さん来てくださいね。

(内田 佳彦)

